

対比について

―表現面と内容面からのアプローチ―

駿台予備学校講師 橋立 誉史

次の文は、二〇一七年度大学入学共通テスト
試行調査・第2問・問2の正解選択肢です。

パッケージ型の路地とは、区画整理された路
地が反復的に拡張された路地のことであり、
参道型の路地とは、通り抜けできない目的到
着点をもち、折れ曲がって持続的に広がる、
城下町にあるような路地を指す。

この問いでは「パッケージ型」と「参道型」の
路地という二つの説明が問われています。大学
入試現代文の論理的・実用的な文章では、この
ような対比を用いた設問の出題が予想されます。

一、表現面からのアプローチ

二つのものの「違い」は、「XはAであるの
に對し、YはBである」という構文を用いば
スムーズに説明できます。これを「対比構文」
と呼びます。記述式では、対比構文を解答のス
タイルと決めてから、「X」「A」「Y」「B」の
四つの項に解答要素を盛り込んで答案を作成し
ます。先述の選択肢はこの構文を用いているの

で、対比構文型という「選択肢のカタチ」を意
識して選ぶように指導します。そうすれば、選
択肢でも、〈書くように選ぶ〉ことができます。

二、内容面からのアプローチ

文章に書かれている内容を整理して理解する
ことが不得手な受験生は少なくありません。考
えられる原因として、「文章のままで理解しよ
うとする」ことが挙げられます。先述の問いでは、
本文の第六段落「パッケージ型」と「参道型」
について、それぞれの内容を踏まえる必要があ
ります。そこで、説明のグルーピング（グルー
プ分け）をした簡単なメモ書きや図示をさせま
す。試験では時間をかけすぎることができませ
んから、「簡単な」という点がポイントです。

三、実際の指導の現場で

実質的に対比内容の整理が問われた例に、二
〇一四年度センター本試験・第1問・問4を挙
げます。「文」と「武」の対比について、「武を
文に對立するものとしてでなく、忠の現れと見

